

普通期水稲品種「鹿児島5号」による作期分散

田之頭拓・竹牟禮穰¹⁾・若松謙一
(鹿児島県農業試験場・¹⁾鹿児島県農業試験場徳之島支場)

Taku TANOGASHIRA, Minoru TAKEMURE and Ken-ichi WAKAMATU:
Dispersion of Cropping Season by Rice Variety
for Normal-season Culture "Kagoshima 5"

鹿児島県の普通期水稲は早生の品種「ヒノヒカリ」の栽培が急増し、作付面積の約8割を占め、晩生品種の割合が低くなっている。このため、収穫期の労力分散が図れないこと、農業機械・乾燥機などの効率的な利用が難しいことが課題となっている。さらに、倒伏による生産の不安定や極端な早植による品質の低下が懸念され、晩生の良食味品種が強く望まれてきた。

今回、鹿児島県で奨励品種に採用された晩生の良食味新品種「鹿児島5号」について、5月から7月までの移植期移動に伴う生育、収量および品質等栽培特性の変動を調査し、その特性を明らかにした。

1. 試験方法

試験は鹿児島県農業試験場の水田において、稚苗機械移植栽培で実施した。「鹿児島5号」の比較品種として早生の「ヒノヒカリ」を供試し、施肥量は窒素成分で基肥0.4kg/a、穂肥0.3kg/aとした(第1表)。

2. 結果および考察

1998年から2000年の3ヶ年の試験結果から、「鹿児島5号」は、同時に移植した「ヒノヒカリ」に比べて出穂期は7~10日、成熟期は11~16日の差が認められ、「ヒノヒカリ」との収穫期の分散は十分可能と考えられる

(第2表)。

「鹿児島5号」の玄米品質は、すべての区において「ヒノヒカリ」に比べて安定して優れる結果であった(第1図)。また、「ヒノヒカリ」の5月、6月植は8月上中旬に出穂し、登熟期間が高温であることから背白米の発生が認められ、玄米品質は劣った(第1表)。このことから、高温登熟となる「ヒノヒカリ」に比べて、「鹿児島5号」は登熟期間の温度が低いことが、玄米品質が優れる要因と考えられる。

「鹿児島5号」の玄米重はいずれの移植期においても「ヒノヒカリ」より多い結果であった。その要因として、「鹿児島5号」は「ヒノヒカリ」に比べて登熟歩合が高く、耐倒伏性が強いことが(第3表)、収量の安定多収につながっていると考えられる。

以上の結果から、5月から7月までの移植期では、「鹿児島5号」は「ヒノヒカリ」に比べて玄米品質は安定して優れ、耐倒伏性も強く、収量も安定して多い。「鹿児島5号」と「ヒノヒカリ」を組み合わせることで、「ヒノヒカリ」の品質低下や倒伏等による収量変動を補え、さらに安定的な作期分散が図れることから、今後生産の安定と品質向上が期待される。

第1表 耕種概要

試験年度	1998年			1999年			2000年		
	5月植	6月植	7月植	5月植	6月植	7月植	5月植	6月植	7月植
播種日	4/24	5/25	6/24	4/23	5/24	6/25	4/25	5/26	7/3
移植期	5/15	6/15	7/15	5/14	6/14	7/14	5/15	6/15	7/18
栽植密	17.2	18.3	21.2	17.8	17.3	21.8	17.7	18	21.5

注) 栽植密度: 株/m², 7月植は生育量を確保するためやや密植とした

第2表 移植期と出穂期, 成熟期および品質の関係

品種名	移植期 (月/日)	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	品質	背白	登熟期間の気温(°C)		
						平均	最高	最低
鹿児島5号	5/14	8/16	10/3	5.3	0.7	26.4	30.4	23.0
	6/14	8/30	10/20	3.3	0.0	24.8	28.8	21.4
	7/15	9/13	11/5	3.7	0.0	22.8	26.8	19.3
ヒノヒカリ	5/14	8/6	9/17	7.3	2.2	27.4	31.4	24.1
	6/14	8/21	10/5	6.3	0.8	26.4	30.5	22.9
	7/15	9/6	10/25	5.0	0.0	24.2	28.1	20.8

注) a) 品質: 1(上上)~9(下下), 規格外の10段階評価

b) 背白: 0(無)~5(甚)の6段階評価

第3表 移植期と収量, 収量構成要素の関係

品種名	移植日 (月/日)	わら重 (kg/a)	玄米重 (kg/a)	同左比率 (%)	穂数 (本/m ²)	一穂粒数 (粒)	千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	倒伏程度
鹿児島5号	5/14	91.2	54.8	101	375	79.9	20.8	83.6	0.7
	6/14	80.8	54.1	100	372	74.6	22.1	84.6	1.1
	7/15	62.4	51.9	96	452	74.0	21.4	74.6	1.7
ヒノヒカリ	5/14	86.7	53.2	103	370	84.5	21.5	76.8	0.0
	6/14	73.9	51.9	100	397	76.4	21.8	71.6	1.3
	7/15	55.0	51.0	98	435	74.4	22.0	74.5	2.8

注) a) 精玄米重同左比率は各品種の6月植を100とした

b) 倒伏程度: 0(無)~5(甚)の6段階評価